



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No.04

令和元年10月4日

学校だより

第2回シンガポール研修から学んだこと

後期課程 副校長 永廣 裕子

今年も後期課程では、7月24日から28日の5日間、シンガポール研修が行われた。15名の生徒が参加し日本では得られない多くのことを学んだ。参加した生徒が文化祭で研修の報告をしたが、今年初めて試みた取組等について再度報告させていただきたい。

研修日程と活動内容は右の通りである。5日間の日程は、シンガポールをすべてを知り、学び尽くす意気込みで臨んだ子どもたちにとっては、過密な行程であったのかもしれない。歩いて移動することが多く、2万歩以上歩いた日もあった。それでも子どもたちは弱音を吐かず意欲的に街中を散策していた。

今年も、3日目に2つの学校と授業交流、文化交流を行った。

まず、ジュロンビル中等学校 (JVS) を訪れた。数年前に2つの学校が統合した新設校で、生徒数約1000名、教員数約100名の大規模校である。

7時過ぎに到着すると、朝早いにもかかわらず、私たちと出会うために、全校生徒がグラウンドに集合して待っていてくれた。子どもたち一人一人には世話役 (バディ) がいて、授業、交流などを共に行動してくれた。シンガポールの学校では、登校が早いので、10時頃に長めの休憩があり、軽い食事をする。その日も、私たちのために特別にチキンやヌードル、飲み物を用意してくださり食事をとった。疲れたときのために、控え室も用意されていて、心遣いを感じた。

授業は、バディと共に参加した。社会の授業では、「この学校の宝は何か」というテーマで校舎の中を自由に歩き探したり、理科の授業では「生命の誕生」について映像を用いて科学的に学んだりした。また、ドローンについて操作方法を学ぶ授業も経験した。

午後からは、再度体育館で全校生徒と共に交流会を行った。そこでは、本校の生徒が日本の文化について発表した。集会では校長先生の話もあり、「困っていた人を助けてくれた



7/24	4:50 学校集合・出発
	10:30 日本発 (空路、シンガポールへ)
	16:20 チャンギ国際空港着
	市街観光 (マーライオン等)
7/25	〈午前〉 国立教育研究所 (NIE) でのワークショップ、学校見学
	〈午後〉 市街観光 (神農、モスク、チャイナタウン、ガーデンバイザベイ)
7/26	〈午前〉 ジュロンビル中等学校 (JVS) で授業体験
	〈午後〉 シンガポール大学附属高校 (NUS) で文化交流
	NUSの生徒宅でのホームステイ
7/27	〈日中〉 ホームステイ (各家庭)
	18:30 チャンギ国際空港着・出国手続き
7/28	1:20 シンガポール発 (空路、日本へ)
	9:05 中部国際空港着
	13:45 学校到着・解散



JVSの朝の全校集会の様子



全校生徒の前での挨拶



パティとの軽食バイキング



JVSでの日本文化の発表



課題に取り組んでいる授業の様子



グループでドローンを飛ばす授業

子がいる。連絡をもらったが大変うれしい。「今、人権週間であるが、日本について興味のない子もいるかもしれない。こうやって話をして交流することで良さがわかり理解し合える。だから英語をきちんと学ぶ必要がある。」と語りかけていた。シンガポールの学校はすべて英語を使っているが、家庭では母国語を使うことが多く、学校では英語力をしっかりつけてほしいと考えている。子どもたちへの願いはどの国も同じだと感じた。

授業中や休み時間の子どもたちの様子を見ていると、カメラを向けると、こっちを向いてポーズをとる子、反対に下敷きで顔を隠す子、授業参観に行くときにこっと笑って手を振る子、前を向くように手でジェスチャーすると素直にうなずきながら前を向く子、授業中、そっとノートにアニメのイラストを描いている子など、行動や表情、反応は日本の子どもたちと同じである。

休み時間の交流では、お互いに知っている韓国の歌手の話で盛り上がり、振り付けをしながら楽しそうに歌っている様子も見られた。生まれた場所が違い、文化は異なっても、インターネット等の発達で文化、芸術などの情報は共通のものが多く、今は、言葉さえ通じれば、簡単にコミュニケーションがとれ、じっくり話せば心が通じ合えることを実感した。

今年は、初めてホームステイを試みた。2校目に訪問したシンガポール大学附属高校（NUS）での文化交流の後、1～2名ずつ各家庭に分かれて行った。NUSは、今年6月に本校に来校し、授業交流やホームステイをしていて顔見知りの子も多く、すぐに打ち解けていた。

ホームステイ先では、どこに行きたいか、何を食いたい希望を聞いてもらい、シンガポールの街を観光したり、家庭でゆっくり過ごしたりして有意義な2日間となった。また必ず訪問することを約束した子もいたようだ。ホームステイを通して、英語や異国の文化を学ぶことができた。また、それ以上に、異国での出会いと別れを経験し、人とふれあうことの素晴らしさを体感したようだ。次の日の夕方、別れる際はお互い涙を流している様子も見られた。ホストファミリーからは、「たった2日間は足りない。あと数日一緒に過ごしたかった。」という声も聞かれた。体調を悪くした子に対しては、親身になって看護して下さった。子どもたちにとって、一生忘れられない貴重な2日間になった。シンガポールが第2の故郷になった子もいるのではないだろうか。

シンガポールは予想していた以上に、教育に対して熱心で、施設も充実していた。また、訪れたどの学校もきめ細やかなもてなしをしてくださり、気持ちよく5日間の研修を終えることができた。

今後、シンガポールだけでなく他国の学生とも交流する機会を増やしていき、できるだけ多くの子どもたちが交流できる場を設けていきたい。また、来年シンガポールの生徒が来校する際は、あたたかなおもてなしで迎え、日本の文化や福井の良さを伝えたいと強く感じた5日間となった。



NUSでのけん玉による文化交流



シンガポールの街を探索



2階建てバスに乗り移動



ホームステイファミリーとの夕食